

KUMON EIC 2016

キャンプリーダーへのメッセージ

千葉泉弘

皆さんこんにちは！ EIC 2016にご協力下さりありがとうございました。猛暑の中、さぞお疲れのことでしょうが、大いにエンジョイされたことと思います。参加した子どもたちの無邪気な笑顔は生涯皆さんの脳裏にしっかりと刻まれることでしょう。一方、多くの子どもたちにとって皆さんは最初に親しくなった海外からのお兄さん、お姉さんです。彼らも皆さんのことを一生忘れないでしょう。私はフランスから昨日帰国しました。時差のため年寄りにとってかなりきついスケジュールでしたが、どうしても皆さんにお礼を言いたくて参りました。そして、今年はぜひ皆さんに伝えたいメッセージがあります。

第2次世界大戦が終わった時、私は小学校6年生でした。今でも「戦争は終わった。これから平和になる。」と歓喜した自分を覚えています。世界中の人々も同じように感じたと思います。この1945年は人類の歴史の中で最も重要な年であったと思います。すべての国が、これまでの争いの歴史に終止符を打ち、対等の立場で対話・協議と法の整備を通して平和を推進しようと決意し、人類の夢が実現したからです。それは国際連合の実現です。多くの植民地が解放され独立しました。政治、外交、経済等の分野だけでなく人々の生活に関連する主要な分野、例えば、健康と衛生、農業と食料、教育、科学や文化の発展を通して平和の推進を担う国連の専門機関も設置されました。

私が初めて目にした国連関連の文書は、国連に先立って、戦後初めて日本の国際社会への復帰を認めたユネスコ憲章の前文でした。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という高邁な理想は多くの日本人の心を捉えました。

それまで教育、特に初等教育は、国家主権の聖城の壁に守られて外部からの干渉を拒み続けてきましたが、初めて人権や平和を推進しようとする国際理解教育が登場し、また教育の格差を解消しようとする初等義務教育や識字活動の国際協力がユネスコによって展開されました。爾来、国際社会は、この70年間紛争解決と人権と平和の確立、貧困や疾病からの解放、社会経済開発、環境の改善等、各分野からの平和を目指した国際協力を推進してきました。

ユネスコの高邁な理想に感動した私は、願いが叶ってユネスコに31年間勤

務ることができ、アジアやアフリカの教育開発や識字活動に携わってきました。しかし、世界には7億5千万から8千万の非識字者がおり、その多くが貧困や紛争に苦しむ地域や国に集中しており、64%が女性です。初等教育も飛躍的に発展してきましたが、未だに8500万の学齢期の子どもたちが就学できません。私は1991年にユネスコを引退しましたが、世界中の子供達がみな笑顔で学校に通えるようにという夢は実現できず、またすべての人が文字を覚え、学びを通して社会参加のできる機会が世界中に開かれるという目標も達成できませんでした。残念でたまりません。しかし、平和志向の国際的なうねりの中に自分の身を置き、私なりの貢献ができたことは幸せでした。

しかし、世界は今急速に変化しています。残念なことに、この急激な変化は、良い方向に向かうのではなく、これまで築き上げてきた平和志向の文化や国際交流、国際協力の成果を否定するような危機な方向に進んでいます。例えば、やっと学ぶ喜びを胸に学校に通えるようになった子どもたちが襲われ、殺されたり、拉致されている悲惨な現状に激しい怒りを感じます。これらの子供たちはテロ集団の戦闘員になることを強要され、女子はテロ集団の子供を産むことを強要されています。

私はこの夏フランスに滞在していましたが、そこで目にしたことは想像を絶する深刻な状況でした。治安の安定しているはずのフランスで、レストランやスーパー、ライブ会場、花火大会といった人の多く集まる場所を狙ったテロが発生し、多くの犠牲者を出しました。さらにフランスの信仰の要でもあるパリのノートルダム寺院から200メートルしか離れていないところに爆薬が仕掛けられていたことです。驚いたことにその首謀者は若い女性たちでした。連日大勢の難民が途中で命を落とす危険にさらされながら地中海を渡ってヨーロッパの海岸に到達しています。しかし彼らが安全な地に定住できる希望や可能性は見えていません。逆に自国中心の右派勢力が大きく台頭しています。このように、欧米社会は隣人を信用するという市民社会の心の絆が切れたり、また切れかかっています。これでは民主主義の根底が崩壊しかねません。

これまでの戦争や紛争は、「国対国」「民族対民族」といった敵対する相手の軍隊との戦いでした。ところが今我々が直面している危機は、相手の見えないまたどこにいるかもわからないグループや個人からの襲撃の脅威です。普段は社会の中で市民として普通の生活をしてきた隣人がある日突然海外からのネットを通じた指示でテロリストに豹変します。また多くの若者が、家族から離れ

海外の過激なテロリスト集団に参加しようとしています。いくら警察や司法制度を強化しても、彼らが実際罪を侵さない限り逮捕することができません。解決策は唯一彼らが過激なイデオロギーに感化されないように社会生活の質と構造を改善することと心の教育です。生きる喜びと共生する幸せを味わえることで、全ての若者の心に平和の砦を築くことです。

そこでわたしはみなさんに是非ユネスコの憲章前文にある高邁は平和理念をもう一度思い起こすよう提案します。

「戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」

誰もが安心して暮らせる社会、市民のこころの絆の強化、過激思想に走らない心と理性、相手の見えない危機に対処する冷静な判断と協力を充実させるには、世界のすべての人の「知」と「心」の改革が必要です。ユネスコの原点に立ち返って **Education for All: Construction of Defense of Peace in the Mind of All Men and Women**、が強調されなければなりません。特に **Construction of Defense of Peace in the Mind of Children** は世界の緊急な課題です。

EIC は子供のこころの中に平和の砦を作る重要な可能性を持っていると信じています。世界各地から集まっているキャンプリーダーの皆さんは、それぞれ異なる言葉と文化、信仰と基本的価値観、生活習慣や趣味を持ってこのキャンプに参加して子供たちと生活を共にしています。このキャンプは非常に多様な多文化的生活空間を作り上げており、まさにミニグローバル社会の理想郷です。是非みなさんの国や学校のこと、家族のこと、若い人たちの夢や希望をたくさん話してください。日本の子供達に大きな楽しい夢を持たせてください。そして皆で話し合い、各々の夢の実現に向かってみんなで努力する決心を促してください。これこそが世界の子供達のこころに平和の砦を築く第一歩なのです。

EIC は、たとえ小さなステップであっても世界市民として生きる学びと人間形成の第一歩なのです。そして今、危機に瀕した世界平和を守り、明るい未来を創り上げる頼もしい世代として、私たちは彼らに人類の未来を託さなければならないのです。**EIC** の究極の目標と大きな可能性を是非理解してください。

若いキャンプリーダーの皆さんもこのキャンプで学んだことを大切にしていって明るい未来に向かって頑張ってください。**EIC** が新しい世紀の平和文化創造の発祥地となり、世界に貢献できるよう共に努力しましょう。